ハンドマイク街頭演説原稿例　核兵器廃絶今こそ

二〇二五年八月五日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　今年は第二次世界大戦終戦八十年、広島と長崎に原子爆弾が投下されて八十年という、節目の年です。日本共産党は、被爆国の政党として、一貫して核兵器廃絶のために力を尽くしてきました。この節目の年に、日本政府が核兵器禁止条約に参加し、核兵器廃絶をめざす世界の流れに加わることを、強く求めます。

　昨年、被爆者の団体である日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が、ノーベル平和賞を受賞しました。覚えておられる方も多いと思います。ノーベル賞の受賞理由は、「『ヒバクシャ』として知られる広島と長崎の原子力爆弾の生存者たちによる草の根運動は、核兵器のない世界の実現に尽力し、核兵器が二度と使われてはならないことを、証言を通じて示してきたこと」、その結果「八十年近くの間、戦争で核兵器は使用されてこなかった」、「日本被団協やその他の被爆者の代表者らによる並外れた努力は、核のタブーの確立に大きく貢献した」としています。被爆者が「核兵器のない世界」実現のために力を尽くしてきたことを高く評価したものです。

　みなさん、日本は世界で唯一、戦争で核兵器を使用された国です。その国の政府として、被爆者とともに核兵器廃絶のために全力を上げることが、日本政府の果たすべき役割ではないでしょうか。ところが現在の石破自公政権はどうでしょうか。アメリカの核兵器によって日本を守る、いわゆる「核の傘」論や「核抑止力」論の立場に立ち続けています。「核の傘」や「核抑止力」という考え方は、いざとなったら核兵器を使うことが前提です。これは、核兵器廃絶とは反対の立場です。唯一の戦争被爆国が、いざとなったら核兵器を使うことを認める立場をとるなど、とんでもないことではないでしょうか。

　日本共産党は、被爆者の皆さん、そして核兵器廃絶を求める多くのみなさんとともに、日本政府が核兵器禁止条約に参加することを強く求めます。核兵器禁止条約は史上初めて、核兵器を悪いものと断じた条約であり、使うことや持つこと、核兵器を使ったおどしなどを禁止しています。核兵器を持つ国々は確かに参加していませんが、現在七十三カ国が国内手続を終えて正式に加入し、署名ずみの国も二十カ国以上あります。核兵器を認めない地域が世界中にどんどん広がっています。ここに日本が加われば、この流れはさらに強くなることは間違いありません。日本政府もいちおうは核兵器をなくすべきだと言っています。それならば、核兵器廃絶への最も大きな力となる、核兵器禁止条約に参加すべきです。

　日本共産党は、核兵器の廃絶と世界の平和のため、これからも全力で取り組んでいく決意です。

　自民党の裏金問題を最初にスクープした、日本共産党の発行する「しんぶん赤旗」をこの機会にぜひお読みいただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）